

2020年4月20日

ひょうご市民活動協議会（HYOGON）

会員の皆さま

ひょうご市民活動協議会（HYOGON）

共同代表 実吉威、山崎清治

今年度の事業方針について

皆さま、コロナの影響下の昨今、いかがお過ごしでしょうか。様々な市民活動、各種の支援活動をされている皆さまは、現在、大きな制約や困難を感じておられるのではないのでしょうか。

私たちの市民活動は、人と人が「触れ合い」、「つながり」、「支え合う」ことを大切にしてきました。しかし、コロナ下ではそれが感染拡大を招くリスクがあると忌避もしくは禁止されるようになり、人の暮らしや命を支えるその支援の必要性との間で、多くの団体が苦悩しています。

また、市民活動団体（NPO）としての経営面にも、コロナは甚大な影響を与えています。会員団体の中からも、活動の休止、収益の激減、委託事業等の停止といった情報や、苦境にあるという声が届いています。

大変難しい状況です。どう乗り越えるか、まだ正解はどこにもありませんが、こういう時こそ、みんなで知恵を寄せ合いませんか。

HYOGON 自体は小さなネットワークですが、加盟している団体は多くの分野にわたり、事業面、組織運営面、運営技術面などで多くのノウハウや、豊富な情報を有する団体を擁しています。また HYOGON として、県への緊急提言などの動きもしています。

この非常事態は、決して短期間では終わらないでしょう（一定の収束を見るまで、最低で数年の時間を要すると言われていています）。その間、感染の恐怖だけでなく、人が人を疑い、責め、気遣わないといった社会を少なからず生み出してしまうでしょう。従前の社会問題も一層深刻化し、新たな問題も噴出するでしょう。また、この事態が収束した際にも、社会のあり方や価値観、我々の行動様式は大きく変容を迫られるでしょう。社会的に弱い立場の人々にしわ寄せが集中し、格差社会がますます酷くなることが懸念されます。

しかし、だからこそ、人と人が支え合い、互いに尊厳を認め合って生きる社会を作る私たち市民活動は、むしろ一段と価値を持つに違いないと考えています。

ぜひ、今こそネットワークの力を活かして皆の知恵と情報を持ち寄り、「ポストコロナ」を見据えて、市民活動を維持していきましょう。

兵庫で暮らす市民、市民活動、そしてそれに関わるすべての人たちのために。

上記のような想いのもと、HYOGON 運営委員会において、次のような方針で今年度の事業計画を考えようということになりました。ぜひ会員の皆さまのご参加、ご協力をお願いいたします。

- 1) 今年度の活動は、会員団体の活動・組織を支える事業を中心に据える。
- 2) 今年度は年会費を免除とする。（任意でご寄付を寄せていただくのは歓迎します）
- 3) 例年以上に、会員の皆さまのご意見をもとに活動を組み立て、またご参画をお願いしたい。